

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|----------|
| 事業所番号 | 4372700932 | | |
| 法人名 | 社会福祉法人 成仁会 | | |
| 事業所名 | グループホーム みどり | | |
| 所在地 | 熊本県阿蘇郡西原村布田 845 | | |
| 自己評価作成日 | 令和4年1月15日 | 評価結果市町村受理日 | 令和4年6月9日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.gh-seika.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | |
|-------|--------------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 あすなる福祉サービス評価機構 |
| 所在地 | 熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205 |
| 訪問調査日 | 令和4年4月13日 |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広報誌「しあわせがいっぱい」は家族に好評である。
 職員が入居者と楽しく生活する為の工夫と視点がある。喜びを共有することが出来る。
 職員は常に笑顔で入居者とコミュニケーションがとれている。
 法人内の情報共有もスムーズにでき、相互交流が出来ている。職員は役職、資格にとらわれず業務が出来、問題意識を持ち、意見を述べる事ができる。
 入居者は退去後の不安感が解消できるように支援体制がある。
 新規入居にあたっては、本人、家族と信頼関係が早期に出来るよう対応している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は入居者の入れ替りが多く、入居して落ち着いた生活やホームで家事活動等が出来ることで意欲を引き出す等職員の持つケア力が発揮されている。開設当初からの「しあわせがいっぱい」とする便りに入居者の明るい生活が表われ、コロナ感染症による外出制限の中、退屈しないように「充実したホーム内活動」を目標として日常生活に力を入れて支援している。家族へは頻回な連絡により不安軽減とし、家族からも多彩な野菜が提供され食に生かされる等協力的である。入居者は車椅子の利用も無く、日々の生活にメリハリや役割のある生活が認知症進行防止として生かされ、伸びやかな生活ぶりにグループ本来の姿を見ることが出来る。管理体制の変更という変革期にはあるが職員体制も殆ど変わる事も無く、意思疎通の良い関係が創意工夫としてホーム運営に反映されており、運営推進会議の再開によりこれまで築き上げてきた地域の中での生活拡充へと繋げていただきたい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当する項目に○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および外部評価結果

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 法人の運営理念、経営理念、考え方を共有しホーム内のケアにとどまらず、地域への貢献、信頼されるホーム作りを目指し、ガラス張りの運営を目標に実践している。 | 隣接の特養の広報誌を通じた地域への発信とするとともに、開設当初からの手作りのホーム便り”いあわせがいつぱい”にホームの活動を開示している。理念に謳う「家庭的な雰囲気の入居者の個性を生かし安心して暮らせる日常」を、コロナ禍による制限された中にホーム内でできる生活の充実を図っている。職員の異動もなく、のんびりとした生活の中に理念が生かされている。 | 全委員での振り返りの機会は難しかったようである。日々のケアに反映しているか等振り返る機会も設けられることを期待したい。 |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 地域の情報は把握するように努めているが、コロナ禍にて地域イベント等もなく、現在は交流がない状態である。 | 地域の行事や隣接の特養でのイベントやボランティア活動の受入れも中止となり、地域住民との関わりは少ない状況である。例年であれば近くのある企業の運動会への招待もあるが、中止すると案内が届けられている。 | コロナ禍により、開設時から築き上げてきた地域との関係性を継続することは困難な状況にある。コロナ感染症に目処が立てば、また再開できることと期待したい。 |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | コロナ感染拡大防止の為、2ヶ月毎の書面配布のみの実施となっている。 | / | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | コロナ感染拡大防止の為、2ヶ月毎の書面配布のみの実施となっている。 | 運営推進会議は書面での開催として、役場に提出している。今年度からは運営推進会議の対面開催を役場担当者に相談している。また、参加メンバーの見直し等も検討したいとしている。 | 民生委員へ参加を声かけすること等の構想もあり、視点を変えた話し合いや外部評価での課題等を提起しながら話し合う等検討いただきたい。また、入居者も会議に参加されることで人との関わりが刺激として生かされたり、認知症ケア啓発への一環としても期待される。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 運営推進会議への参加依頼、村内行事への参加を行い、協力関係が築けるようにしている。 又、西原村地域包括支援センター運営協議会へ委員として参加している。 | 運営推進会議の報告書提出に向くものの、グループホーム単独での行政との関わりは少ない。行政から要支援1・2の高齢者の相談は多く特例入居に至ったケースもある。村での認知症初期対応チームが立上がり、ホームも参画することとなっている。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 徘徊で落ち着かれない時は一時的に施錠を行うが時間的ロックで対応できている。 | 隣接の特養内での身体拘束適正化委員会や事故防止委員会にホーム長が参加し、職員にフィードバックしている。毎年権利擁護の資料をもとに、ラインワークで職員個々が勉強することになっている。入居者が自由に出る環境が出来上がり中庭の草取りに取組まれる姿も有り、職員が見守りを徹底している。現在徘徊する入居者もおられず、換気から窓を開放する等自由に生活出来る環境である。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている | 併設特養と一体となり管理職の会議において情報を共有しチェックしている。また、内部牽制により、お互い注意し合える職場風土作りに努めている。 ニュース等で取り上げられた事例で関連するものにおいては全職員に情報を発信している。 | | |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | 特養と一体となり管理職の会議において情報を共有し、また、ニュースで取り上げられた事例に関するものは全職員に情報を発信できるようにしている。 | | |
| 9 | | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 入居前の説明はもちろんの事、退居にあたっては、不安がないよう十分な説明と今後の対応について説明するようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|-----|--|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | コロナ禍により直接ホームにて話すことは少なくなり、ご家族へは電話にて報告を行い、意見を聞くようにしている。また面会時にも近況報告などを行っている。 | 家族へは電話連絡を頻繁に行い、家族会の開催も出来る状況になく、敬老会のお祝いとして家族会からタオルが提供されている。家族の面会も減ってきており、玄関先や窓越しでの面会でも顔を見て安心されており、苦情や要望等も出されていない。オンライン面会も出来ることを家族に伝えている。 | 隣接の特養からの異動である新管理者はグループホームでの管理業務は初めてとして、家族に個別で意見や要望等を聞き取りたいとしており、家族の忌憚無い意見等を収集し、サービスに反映いただきたい。 |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 常に意見を出しやすい環境である。意見や提案が上がりやすい様日頃よりコミュニケーションをとっている。 | 現在は定例会議は開催しておらず、日々申し送りノートを通じて情報を共有し、3月毎のモニタリング時に主任及び担当職員によるケア上の話し合いを行っている。主任は日々職員とのコミュニケーションを図り、法人内異動はあるものの、長い勤務歴の職員が多く、働きやすい環境が整備されている。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 法人全体に人事評価があり本人と上司が評価する仕組みがある。残業を減らし有給取得に努めている。資格取得に対する補助仕組みがある。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 事業所内の勉強会の他、法人全体で勉強会、研修を実施。現在、外部研修には行けない状況ではあるが必要となれば、リモートでの研修も行えるよう準備をしている。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | コロナ禍により以前のような勉強会や交流を図ることが出来なくなっている。 | | |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 本人の意見や思いを聞きだせるよう努めている。又、初期ケアプランにも反映できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|-----|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居に至るまでに行う面接の中で家族の意見も十分参考にしている。アセスメント作成には家族にも手伝って頂き必要なものは初期プランにも反映出来るようにしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 可能な限り、管理者と計画作成担当者が一緒に面談を行い現状の確認とその時の一番必要な支援を提案出来るようにしている。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 家庭的な雰囲気の中で、共に暮らし支えあう関係を心がけ、人生の先輩として接している。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | コロナ禍、面会禁止となり、ご家族と会う機会が減少している。その分、電話にて近況報告を行うようにし、ご本人とも話す機会を設けるように努めている。 | | |
| 20 | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 入居者や家族の要望を伺い、定期的にドライブで故郷を訪れたりなどの支援をしている。 | 入居者の自宅周辺を回る等、馴染みの場所へのドライブを支援し、正月には絵馬に目標を記したり、お盆にはご先祖へのお供え物、七夕短冊作り、テラスでの花火大会等馴染みの人との関係は家族中心であるが、場所や慣習等今できる最大限の支援に取り組んでいる。また、地元の方々であり、ホームは住み慣れた場所であり、入居者も知り合いという関係にある。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 入居者同士の場の雰囲気作りには努めているが、全て職員が介入するのではなく入居者にできる力があれば、利用者同士の支えあいを見守ることもある。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 併設の特養に異動された場合ケアプランを含めた情報の提供を行っている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (9) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 日頃の言動や暮らしぶりから本人の意向や希望を把握し、必要であればケアカンファレンス、ケアプランを活用し支援するようにしている。 | 入居者の「行きたい、したい」等日々のケアの中から聞き取りし、外出支援等に反映させている。認知症があっても、会話のキャッチボールは皆さん出来る状況にあり、真意かどうかを見きわめながら支援している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 入居の際は本人や家族、施設担当者から情報を得るようにし、アセスメント用紙を活用することでより深い情報を把握することができるよう努めている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 個人の有する能力等の現状はアセスメントを使って把握するようにし、ケアカンファレンスや申し送りノートを活用し、職員間の相互理解に努めている。 | | |
| 26 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 三ヶ月に一回のモニタリングを行い、スタッフ間での意見を出し合って、より良い支援に繋がるよう取り組んでいる。ケア内容に変更や検討案があれば本人へ提案し、家族へ連絡、意見を聞く様にしている。 | コロナ禍に家族へはプランの説明ができない状況にあり、入居者本人に希望等を聞き取りしている。認知症進行予防に日々の生活にメリハリや役割を持って生活出来るような目標や、笑顔の多い毎日を過ごすこと等を目標とし、3ヶ月毎のモニタリング(担当職員とケアマネジャーとの話し合い)により継続の可否を見極めている。半年毎に見直し、再作成したプランを全職員で共有している。本人の希望である自由に歩きたい等をプランに反映させている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | ケース記録や申し送りノート、ケアカンファレンスの活用により情報の共有に努めている。また、モニタリング、ミーティングを活用している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | ご家族の面会や電話連絡の際に、意見や要望を尋ねるように努めている。また、職員間での情報共有に努め、新たなニーズに対してすぐ取り組めるようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 法人内の人的、物的、環境面の資源については広く活用、協働できている。現状の地域、社会資源のみでなく、新しく、資源の掘り起こしをしていくことが課題である。 | | |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 本人や家族の希望等、必要性があれば以前からのかかりつけ医の受診を支援している。又、協力医療機関との連絡を密にし、適時、適切な医療を受けられるよう支援している。 | 本人や家族の希望に応じるとしているが、主治医の変更には家族に立ち会ってもらっている。現在は全員が協力医療機関による月1回の訪問診療と突発的にはその都度受診を支援している。また、専門医による毎月のオンライン診療及び3か月毎の訪問診療も行われている。歯科については系列法人歯科より訪問診療や必要に応じて母体特養や法人病院内で治療が行われている。また、咀嚼の相談などにも応じてもらい、指導やアドバイスを受けている。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的に行われる回診時には現状を伝え法人内の看護師と連携できるようにしている。特変時等は早急に報告し受診の有無の指示を受けている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時はサマリーを使用し、本人の認知面や行動状況について申し送りを徹底している。入院中も状態把握の為の連絡を多く取り、本人の不安を減らすと共に、病院のスタッフと関係作りができるように努めている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 入所時健診の際、主治医となる医師より重度化した場合や終末期の在り方についての説明があり、その後カンファレンスの際に本人、家族に対し急変時の延命処置、看取りについても聞き取りをおこなっている。 | ホームでは看取りケアは行わない事と明確にしている。入居者主体の生活に不安があるときには、特養への住み替えも可能としている。新しい入居者には入居時検診の中で、主治医から重度化の説明及び延命等について意向を聞き取りしている。 | ホームは看取り支援は行っていないが、今後も母体法人や系列医療法人の機能を活かし、本人・家族に安心して過ごしてもらいたいとしている。出来る支援に努めていかれる事を期待したい。 |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 急変事のマニュアルを作成し、特養との連携で急変時に備えている。 | | |
| 35 | (13) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 防火管理者を配置し、火災や災害時の避難経路などの確保と、防火点検、隣接特養と合同で年2回の防火訓練とスタッフが自主的に行う防火訓練を行っている。 | 防避難訓練と通報訓練を実施している。備蓄は法人でリストをもとに3日分確保されている。ホーム内の安全管理として、部屋のコンセントの埃なども毎日掃除の中でチェックしている。 | 村内の防災訓練について参加を検討しており、消防団との交流、連携とあわせ、今後の取組が期待される。備蓄についてはホームでもリストを管理しておくことが必要と思われる。 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | プライバシー保護の為、排泄時、入浴時など一人ずつケアを行っている。又、声掛けも耳元で行っている。 | 一人ひとりの尊厳やプライバシーに配慮し、排泄時は耳元での声掛けなど共有を図っている。衣類の選択は自分で選んでリビングに集まれる方や職員と一緒に選ばれる方もおられる。衣服や下着など傷みが見られたら家族へ購入を依頼している。理容は訪問カットを支援しているが、中には美容室に行きたいとの要望もあるが、今は遠慮してもらっている状況である。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 何を行うにも、必ず本人へ声掛け、返答を得てから介入をするよう心掛けている。行事食などの企画時には、利用者の希望する料理を一緒に作り、飲み物は数種類用意し選択できるようにしている。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|--|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 入居者になにか希望がある時は、話を聞いて都度対応を行っている。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 御家族に協力頂き本人の好みの服を準備して頂いる。ご本人で選んだり、職員で似合いそうな服を選び着て頂いている。 | | |
| 40 | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 得意だった料理や昔ながらの調理方法を日常会話の中で聞き出し、回数は少ないが行事企画と一緒に準備やおやつ作りを行っている。また、下膳やお盆、テーブル拭きなど積極的に行われる方がおり、いつも感謝や礼を述べる様にしている。 | 食事はご飯と汁ものをホームで、主・副菜など法人厨房で調理され必要な方にはキザミ食を準備している。家族からの差し入れ(さつまいも・里芋・アスパラ・竹の子など)も多く、一品ととして提供したり、イベントで活用している。お節やひなまつり等の他、目先を変えた花見弁当も好評だったようである。現在、席は対面をさけて配置し、職員は時間をずらし持参した弁当などを食べている。 | 入居者は食に関わる出番も多く、表情が豊かになられたようである。近々バーベキュー会を予定しており、外気に触れながら楽しい食事の機会になると思われる。今後は職員を配置し、ホームで調理も検討していきたいとしており、取組に期待したい。 |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 管理栄養士と協働し、本人の状態に合わせて水分量不足気味なときは、チェックをし必要分摂取していただいている。又、本人の嗜好を大切に、お祝いや行事のメニューに聞き取りをし、取り入れている。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、口腔ケア、義歯洗浄を行い口腔清潔に努めている。可能な限り自力にて行っている。舌磨きも行っている。必要時、歯科と連携している。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 本人の排泄パターンに合わせ、本人にあった方法で支援している。極力、普通の下着を使ってもらおうようにしている。 | 殆どの方が自立でトイレに行かれており、声掛けが必要な方にはプライバシーに配慮しながら対応している。日中はトイレでの排泄を基本とし、必要に応じてパットを併用しながら布パンツやリハビリパンツで過ごされている。夜間のみポータブルトイレを使用される方もおられ、トイレやポータブルトイレは常に清潔を心掛け、天気の良い日はポータブルトイレの日光干しを行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 年齢と共に排便コントロールが難しくなってきた。個々に応じ施設の散歩や体操をしたり、毎日ヨーグルトの提供もしている。 | | |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | グループホームでは、一人ひとりがいつでも入浴できるよう、体制を整えている。個々の気持ちを優先し、くつろいだ気分で入浴して頂いている | 入浴を好まれる方が殆どであり、全員毎日入浴を楽しまれている。自分で着替えを用意される方もおられ、居室に着替えの必要一覧表が掲示されている。菖蒲湯や柚子湯を継続して取り組んでいる。 | 今後は地域ならではの端午の節句、菖蒲湯の慣習(菖蒲を頭に巻く、屋根に乗せるなど)を入居者に尋ねてみる事で、これまでの経験など語り合えると思われる。 |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 睡眠の際は清潔な寝具を使っただけで定期的な洗濯、交換したものを使用。日中ソファなどを活用し、リラックスできる環境づくりを心がけている。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | カルテに記入してある「くすりの説明書」をスタッフは必ず読んで内服薬を把握。一日分ずつセットし、毎食時、眠前と確認し、確実に内服している。内服に変更あれば記録し、申し送る。 | | |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|--|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 一人ひとりの意思を尊重、又、能力に合わせ、洗濯物たたみなどの役割を設け、ケアプランと連動し行っていただいている。入所時に聞き取りを行い、本人の趣味の延長ができるよう支援している。 | | |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 季節感を味わえる行事、ドライブは実施している。コロナ禍により、地域などのイベント参加が出来ておらず、ホーム内での行事参加に留まっている。 | 日常的には庭先やベランダでの外気浴が主であるが、感染症に配慮しながらドライブに出かけ、花畑(菜の花・チューリップ・ひまわり等)も密にならないよう時間等を見計らい近くで見てもらっている。また阿蘇大橋や村内ドライブ(吉無田高原など)の際は、自宅の近くを通ることで話が弾むようである。夏には花火(手持や打ち上げ)を楽しむ等今できる楽しみ事を支援している。 | 現在、入居者の介護度からも外出できる機会も持ちやすいと思われ、対策を施し出来る支援に取り組まれることを期待したい。また、DVDやチューブなども活用し、旅行気分を楽しむことも検討いただきたい。 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 個人の金銭所持が理想だが現状は難しく実践できていない。買い物等の際に支払いを一緒にすることなどで実感してもらっている。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 本人の要望がある場合は、家族へ連絡を入れ、本人が家族と直接話を出来るよう支援している。 | | |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 常に環境整備に努め、清潔感のあるリビングになるよう工夫している。季節の花や道具を使い、季節感が出るようにしている。 | この2年間はコロナ感染症により外出を控えている分、ホーム内で出来る生活の充実を目標に掲げ、各月の担当者を中心に企画している。ソーマン流しや秋刀魚焼き会、入居者も一緒に飾りつけを楽しんだクリスマス会、カラオケや踊りで盛り上がった忘年会など季節に応じた活動が実施されている。感染対策に換気等を徹底し、入居者が密にならないようテーブル配置を工夫している。壁面や春夏秋冬の飾り付け等季節感を醸し出している。 | 入居者と職員との一つ屋根の下での生活は和やかである。今後も、職員のアイデアを生かした共有空間作りに期待したい。 |

| 自己 | 外部 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | 共用空間には、間隔をあけてソファを設置し、気の合う仲間と思い思いの場所でくつろがれている。 | | |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | ご家族と相談の上で、本人の使い慣れた物を活かし、馴染みのある居心地の良い環境を心がけている。 | 入居予定の家族には蔓延防止期間は窓から間取りを確認してもらっている。居室はフローリングにベッド、洗面台を備えていることや、持ち込みの品については、馴染みの物が安心されることを伝えているが、昨今は新しく準備されることが多いようである。入居者は入眠時間も様々であり、個々の習慣を継続して支援している。 | 訪問を控えている家族に代わって、引き続き居室内の環境整備に取り組まれることを期待したい。 |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 一人ひとりの身体機能に合わせた福祉用具を活用し、危険防止に努め、自分の力を生かし動けるように支援している | | |